かすがい市男女共同参画情報紙

はるか

ha ru ka

VOL.17
2006.10

特集/これからの子育て支援に求められるもの

・トピックス「妻と夫の定年塾」～かすがい熟年大学より～
・あなたはDVを受けていませんか?していませんか?
・いきいきピープル
・ジェンダーエッセイ『はるか』な声
・インフォメーション

特集
haruka

～これからの子育て支援に求められるもの～

地域全体で担う親への支援

出生率が1.25と過去最低を更新する中、さまざまな少子化対策が打ち出されていますが、子育て中の親への心の支援策はまだまだのようです。

そこで今回は、ＮＰＯ法人「あっとわん」の代表理事・河野弓子さんにお話をうかがってきました。ＮＰＯ法人「あっとわん」は「自立する市民の場づくり」を基本理念とし、子育て中のすべての親を支援するという活動を行っています。

親への支援活動に取り組もうと思った「きっかけ」は？

高蔵寺ニュータウンへ移り住んだ当初は、住民同士の付き合いが表面的に感じられ、戸惑いました。そこで「率直な思いや関心事を語り合いたい」と、主婦仲間に呼びかけてミニコミ誌の発行を始めました。座談会も催し、子どもや家庭について存分に語り合ってきました。その中で子育て中の親の悩みがいかに多く、相談相手を必要としているのを知り、誰でも気軽に相談ができ元気になる場所を作りたいと思い始めました。

アドバイスするにあたって留意されていることは？

相談の内容は様々ですが、不安を抱えている親の心の支援をするため、お互いに認め合う関係をきずき、相手の思いをあるがままに認めアドバイスするようにしています。専門的な知識が必要な場合は、ＮＰＯや活動団体・機関を紹介するというコーディネートも行なっています。また、私自身、知識の幅を広げるため4月から大学院で『NPOにおける教育の場の必要性』ということを学んでいます。親たちが気軽に相談に来れるよう、ふれあいの場としてカフェを開いたり、情報交換の場として交流会を開催するなど、子育てを楽しく感じてもらえるよう心がけています。

課題や展望などをお聞かせください。

子育てをめぐる社会環境や人々の価値観も年々大きく変わっているため、相談できる相手を見つけにくくなっています。さらに、今日では地域との関わりが少なくなってきていることから、子育て中は「社会から取り残されている」と不安に思いがちです。また、子どもを取り巻く環境が悪化し、子育て家庭から地域に対して、救いの手が求められています。身近に話し相手がいて、親たちが元気にそして安心して子育てできる地域づくりが急がれているのではないでしょうか。

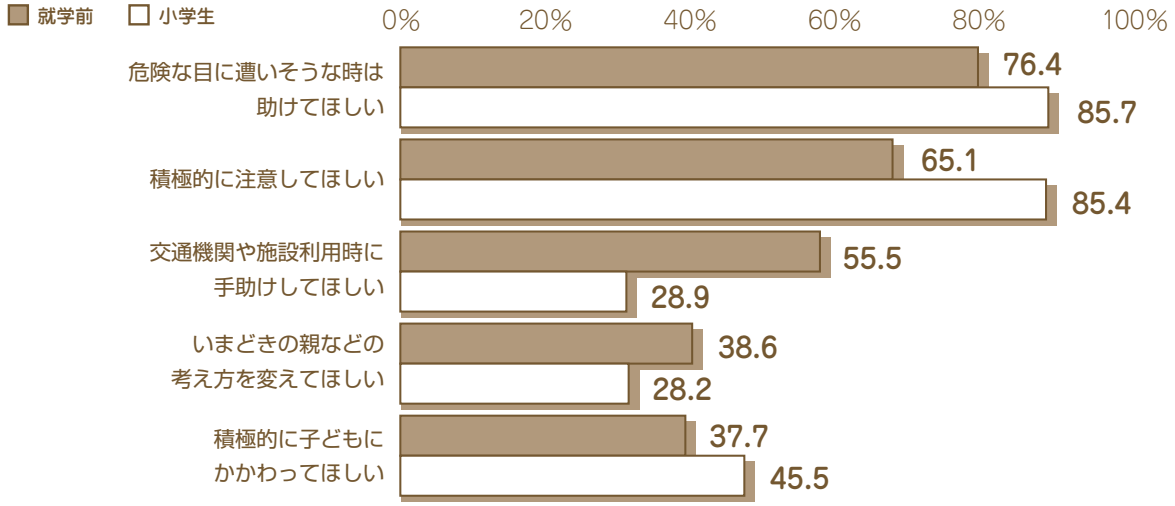
河野さんのお話をうかがい、子育て世代に温かいアドバイスや手助けができる地域づくりの重要性を痛感しました。表からみてもわかるように、子育て家庭は地域からのサポートを望んでいます。（表１参照）

また、育児中の孤独感や不安感を受け止め支えていくためには、子育て責任をひとりで背負わないことが大切です。しかし、夫婦の１日の生活時間を見ると妻が働いているいないに関わらず、家事・育児等の負担は女性に偏っているのが現状です。（表２参照）

少子化が進む中、男性の子育て参加を促すとともに、まもなく定年を向かえる団塊世代の労働力の活用を図るなど、育児を単に個々の家族の問題として捉えるのではなく、地域全体で支えあう環境づくりを進める必要があるといえるのではないでしょうか。

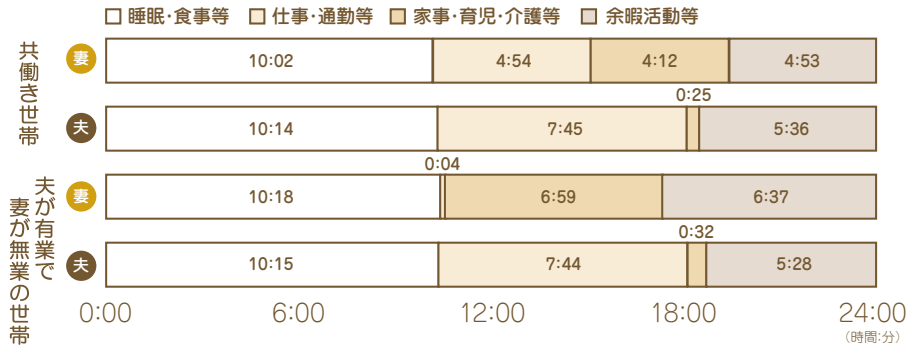
子育て家庭から地域への要望（表1）

子育て家庭は地域に対してサポートしてほしいと要望しています。



資料:春日井市次世代育成支援対策行動計画概要版　1万人アンケート（就学前･小学生の保護者対象）

夫婦の1日の生活時間（表2）



家庭での夫婦の1日の生活時間をみると、共働きであってもなくても「家事･育児･介護等」の負担は妻に大きく偏っています。

資料:社会生活基本調査（総務省）

トピックス　「妻と夫の定年塾」

講師：西田　小夜子　氏

～かすがい熟年大学より～

平成18年5月18日、春日井市総合福祉センターにおいて『第14回かすがい熟年大学開講式』が行われました。開講式に続いて西田小夜子氏を講師に迎え「妻と夫の定年塾」という演題で、合同講座が開催されました。

■プロフィール
東京都生まれ。妻から見た定年夫の生態を、小説仕立てのノンフィクションというスタイルで新聞に連載し、「みのむし男」「生前死後硬直人間」などの造語で話題となる。中日新聞コラム連載中。

「妻と夫の定年塾」

定年を迎え「一カ月休む」と言っていた夫。結局、一日中何もせずブラブラ過ごし、三食決まった時間に「メシ！」と言って食卓でジーッと座っているという生活が二年間続いた。その夫の生活を西多摩新聞のコラムに連載。反響は大きく、そのことが定年男性をテーマにした小説『定年漂流』を書くきっかけとなり、「定年塾」主宰へとつながっていきました。

実は男性もどうしたらよいかわからず困っているのです。そこで私は定年夫婦の幸せを考えるおばさんになろうと思いつきました。

定年後の夫婦のあり方について

～日本の夫婦は助け合って生きていく力がある。人生のたそがれ時を不幸にしないために～

●50歳になったら夫は定年後をどう過ごしたいのか考えておく。妻は夫が一日中家にいる生活をシミュレーションしてみる。
●「オレのメシ」を自分自身で調達できる人は老後も安心だ。妻は夫の料理をけなさない。ほめて育てることでお互いが楽になる。
●「夫は仕事、妻は家庭」で過ごしてきた間の妻の“進化”について話し合う。夫は、「様々な情報を入手し進化した妻」を理解する。妻も現役時代の夫を評価しよう。
●お金は自分たちのささやかな楽しみのために使う。子どもに遺そうとか、増やそうなどとは思わない。
●「ありがとう」「ごめんなさい」は夫婦の潤滑油である。この言葉を口癖にする。それだけで気持ち良く過ごすことができる。
●夫婦がいつも一緒にいることが幸せとは限らない。お互い自分の“やりたいこと”“好きなこと”を見つけて取り組む。男性は特にプライドが高いが、過去の肩書きから離れ“楽しいこと”を始めるとよい。

「女は、男は、などと言っていないで、“おじさんはおばさんをめざせ”。妻はパートナーであって上下関係はないのです」とのメッセージをいただきました。

女である、男である、ではなくお互いを尊重することが大切で、自分らしく生きられれば人にもやさしくなれ、今の自分が幸せなら、夫婦も家庭も幸せになり、ひいては幸せな社会を築くことができるのではないでしょうか。

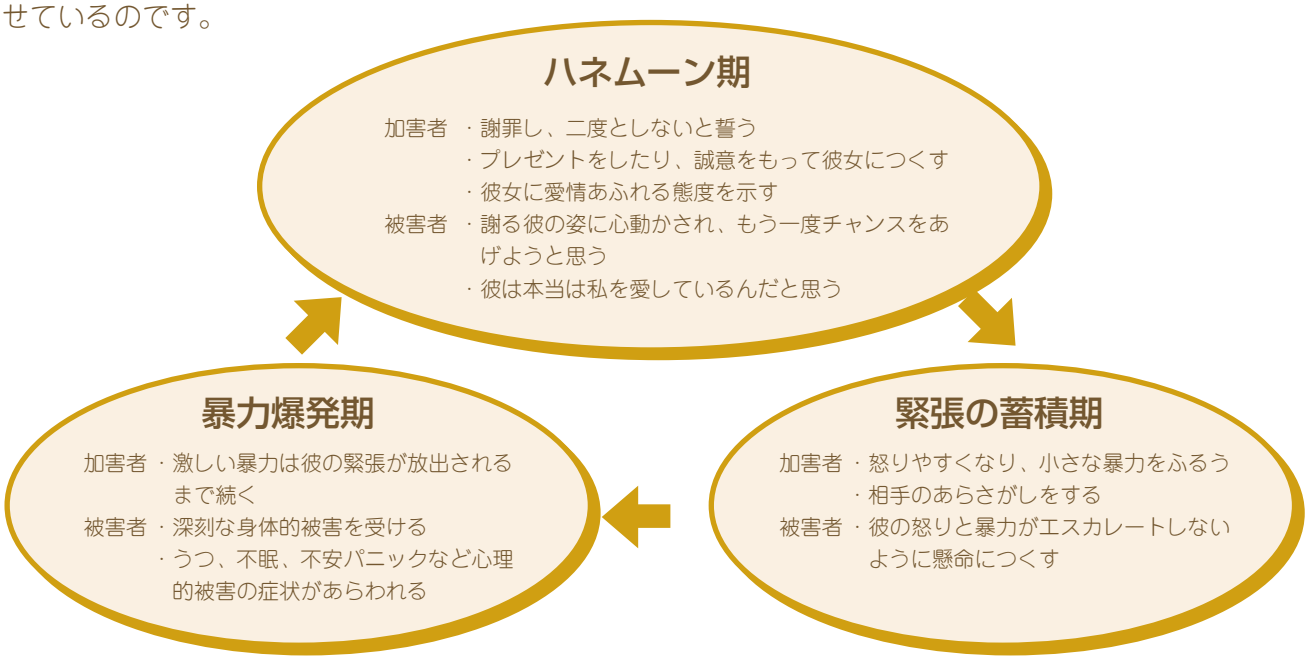
あなたはDV（夫・恋人からの暴力）を受けていませんか？していませんか？

女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

怖い「バイオレンス・サイクル」

加害者(多くは男性)から逃れられない理由のひとつとして、バイオレンス・サイクルが挙げられます。加害者はいつも暴力をふるうわけではありません。激しい暴力（爆発期）の後、態度を一変させ、やさしさに満ちたハネムーン期に入ります。被害者（多くは女性）のために誠意をもって尽くし、謝罪し、二度と暴力はふるわないと誓うのです。被害者は「この人は本当はいい人」と加害者を許し、暴力のない関係を夢見ます。

しかし、ハネムーン期がすぎると、再び緊張が高まり暴力として爆発します。被害者は、繰り返される暴力により無力状態になり逃げる気力を失います。こうしたことがDVをより複雑にし発見を遅らせているのです。



人によって現れ方はまちまちで、３つの期間がすべて現れるとは限りません。

このサイクルを断ち切らないとDVから逃れることは難しいのです。

加害者が暴力をふるうのは、あなたに責任があるからではありません。暴力はどんなことがあっても許されません。DVのない社会を目指しましょう。

（参照：森田ゆり著『ドメスティック・バイオレンス　愛が暴力に変わるとき』）

主な相談窓口

●愛知県女性相談センター（女性悩みごと電話相談）☎052－913－3300
午前9時～午後9時（土・日・祝・年末年始は休み）
●愛知県警春日井警察署　☎56－0110（代）
●レディヤンかすがい

お問い合わせ：青少年女性センター　☎85－4188

女性の悩み相談	火曜日 水～金曜日 土曜日（第2･4）	午前10時～午後3時30分 午後1時～午後4時30分 午前10時～正午	県相談員 カウンセラー 臨床心理士	夫婦、結婚、離婚、家庭のこと ドメスティックバイオレンス、 セクシュアル･ハラスメント、 性別による差別的取扱いなど	☎85－7871
女性のための法律相談 （面接相談のみで、予約制）	土曜日（第1･3）	午前10時～正午	弁護士	夫婦間、金銭、相談など、女性の身の回りの法律問題について	予約（午前9時～午後5時受付） ☎85－4188

注　※火曜日の相談は、月曜日及び火曜日が祝日の場合休みとなります。　※水～土曜日の相談は、祝日も実施します。
※相談をお受けするのは、すべて女性です。

いきいきピープル

今年の５月から春日井市内を走る路線バスの運転士として活躍している伊藤　香さん（名鉄バス㈱春日井営業所）にお話をうかがいました。

Q：バスの運転士になりたいと思われた理由を教えてください。
A：運転が好きだったことと、以前に見かけた女性のバス運転士が印象に残り自分もやってみたいと思いました。

Q：仕事の内容や職場環境はどのようになっていますか。
A：4勤2休のサイクルで、市内3コースを朝早い時は5時頃から、夜遅い時は23時過ぎまで男性運転士と同様に勤務しています。職場では、皆さんが自然に接してくれるので女性だからと特に困ったことはありません。

Q：運転士になって良かったと思われたことは？
A：女性のお客様から「がんばって！」と声をかけられたり、子どもたちから手をふってもらった時などに感じます。

Q：運転中に困ったことはありましたか。
A：女性運転士がめずらしいのか個人的な質問をされる方がいました。運転中に話しかけられると他のお客様の迷惑になるので困りました。

Q：これからの目標を教えてください。
A：今後も安全運転に心がけ、さらに運転が上手になり、お客様にゆったりとした気持ちで乗ってもらえるように頑張りたいです。

Q：上司の運行指導主任・岡田正春さんからひと言お願いします。
A：運転も上手で何より明るく元気がある伊藤さん。これからも職場にさわやかな風を吹かせるような存在でいてほしいと思っています。
　今後、第二、第三の女性運転士が誕生してくれることを願っています。

ありがとうございました。

●インタビューを終えて

制服、制帽がよく似合う笑顔がステキな伊藤さんです。運転士の仕事は、運転を終えた後もみなさんに快適に乗車してもらえるよう、バスの洗車や車内の清掃など、気配り・体力ともに必要とする仕事です。今では小学校５年生の息子さんが一番の応援者だとか。「今後もこの仕事を続けていきたい」と頼もしい言葉をいただきました。
　これからも春日井市内をさっそうと走ってほしいと思いました。

あなたのお近くの**いきいきピープル**をご紹介ください!!

ジェンダーエッセイ

『はるか』な声（こえ）

ひとりごと

宮本　亜子

「おーい」僕を呼ぶゆうくんの声がする。振り返ると、ゆうくんがぱたぱた走ってきた。ゆうくんは小学校１年生だ。「どこ行くの？そうか、いつもの公園だね」。ゆうくんの声を後に、僕は先に立って歩き出した。

公園に着くとゆうくんは話しだした。「ねえ聞いてよ。今日学校でね、パパとママの話が出たんだ。うちはパパもママも働いてて、おうちのこともパパとママで何でも分けてするでしょ？　お料理もお洗濯もぜーんぶ。それが変わってるってけんたくんが言うんだ。パパはお仕事、ママはおうちのことをするもんなんだって」。黙って聞いている僕を撫でながらゆうくんは続ける。「そうかなあ。パパはお料理が上手で、ママはアイロンがけが上手でしょ、僕だってお手伝いするよ。みんなでできることをやってるんだ。変わってなんかないよね」。そうだね、ゆうくん。僕もそう思うよ。人間にはいろんな思い込みがあって大変なんだなあ。

そろそろお空がオレンジ色に変わってきた。「あっ、もうすぐタご飯だね。先に帰ってるね。早く帰っておいでよ」。ゆうくんが家に向かって歩き出す。

えっ、僕？ごめんごめん、僕は猫。ゆうくんの家のね。さて、僕もゆうくんと一緒に家に帰ろうかな。

愛しのスーパーウーマン

猪俣　幸司

色の浅黒いセーラー服の少女が、男の職場に配属されたのは、澄んだ空気がさわやかに吹く季節だった。あどけない笑顔が可愛いくて、ニキビの痕が微笑ましい。

テレビの仕事にあこがれた少女は、学校を卒業すると、念願のテレビ局で働いた。少女は陸上部でハイジャンプをやっていたと元気に答えた。僕はテニスを愛好して、五十路をとうに過ぎていたとはいえ、いささか脚力には自信があるほうだった。

ある日、テレビ局に隣接する寺院の大きな中庭で、僕と少女は五十メートル競走をした。しかし、二十メートルを過ぎたあたりで、僕は負けたことを悟った。少女の長い足はしなやかに伸びて、力強く大地を蹴った。

やがて少女は、死にもの狂いで仕事に取り組む。少女は熱意と才能と、涙ぐましい努力によって、またたく間に男たちを越えていった。

あれから十年が過ぎて、僕は退職をした。いま、彼女はその才気によって、屈強な男どもを従えて仕事に邁進しているはずだ。

心から思う。「ああ世の中には、こんな逞しく美しい女性もいるのだ」と、己の不見識を恥じるばかりである。

●みなさんからのエッセイ（500字程度）を募集しています。

なんでだろうコーナー

スポーツジムの受付で

私「会員証を忘れてきたんですが…」

男性トレーナー「受付の女の子がいないので
ちょっと待っててください」

私「えっ？女の子？…」

※ふだん何げない言葉づかいで男性優位な表現をしていませんか。
女性をいくつになっても「女の子」と呼ぶのはおかしいですよね。
男女とも同じ敬称で表現しましょう。

〈表紙イラスト 制作者のことば〉山崎　由美子

家事も育児も夫婦で分担すれば、互いの苦労も分かり円満な家庭を築けるのではないかと思います。

INFORMATION

第5回 かすがい男女共同参画市民フォーラム

かがやく個性 のびやかな暮らしを求めて

・基調講演「女と男のいい関係」
講師／岡野あつこ氏（夫婦問題カウンセラー）
・ワークショップ
テーマ／「みんなでつくる男女共同参画の合言葉」
コーディネーター／松田　照美氏（名古屋学院大学専任講師）
岡野あつこ氏をコメンテーターに迎え、参加者によるワークショップを行います。

■と　き/平成18年11月25日（土）　午後1時開演（午後0時30分開場）
■ところ/レディヤンかすがい　多目的ホール

岡野あつこ氏

〈主 催〉かすがい男女共同参画市民フォーラム実行委員会・春日井市
〈定 員〉300名（超えたときは抽選）
〈申込み〉11月6日（月）〈必着〉までに住所・氏名・年齢・電話番号《託児希望者は子どもの名前（ふりがな）・年齢・性別》を記入して、
⇒ハガキ　〒486-8686春日井市役所青少年女性課内、
かすがい男女共同参画市民フォーラム実行委員会へ
⇒F A X　(0568)85-3786　※青少年女性課内、
かすがい男女共同参画市民フォーラム実行委員会宛へ
⇒Eメール　sesyojyo@city.kasugai.lg.jpへ　※件名に「フォーラム申し込み」と記入

〈問い合わせ・連絡先〉　春日井市市民経済部青少年女性課　TEL 85−6152

読者の声 ー「はるか」VOL.16についてー

- 家事育児の評価が著しく低い。評価が上がれば主婦のモチベーションもあがるのでは……
- 妻と夫が常に話し合い「ともに尊重し、協力し合い、互いの行動を制限しない」ことが大事だと感じました。
- 出産してから働くために子どもを預けられる保育園を、もっと増やしてほしいと思いました。
- DVの問題は大変難しいと思いました。
- 日本は諸外国と比べ男女差の考えが根強く、それが少子化が食い止められない原因のひとつだと思います。政治家も一般社会も考え方から変えていこうと「決心」しなければと思いました。
- 特殊出生率が1.65から1.9へと上昇したフランスの少子化施策をもっと知りたいと思った。

ご意見をお寄せくださいましたみなさん、熱心に読んでいただきありがとうございます。
VOL.17へのご意見・ご感想もお待ちしています。

編集後記

夫の定年まで約20年!　でも、今日からさっそくトピックスの「定年後の夫婦のあり方について」を実践してみたいと思います。　佐　藤

子育て支援の輪は広がりつつあるというものの、まだまだ十分とは言えません。肩の力を抜いて子育てできる、そんな環境作りをみんなの手で出来ればいいですね。　熊　澤

『もみじ』…秋の夕日に照る山もみじ♪　真の男女共同参画の輝きが一日も早く社会全体に照り映えることを願って、次号に向けての新たな研さんを重ねていきたい。　西　田

5月中旬に始まった「はるか」17号の編集会議。暑かった夏が過ぎ、秋を迎え、ようやく発行することができました。多くの方が手に取り読んでくださるよう祈っています。　増　田

夫の育児参加が少子化打開と新聞に掲載され、やはり妻の育児や家事の負担が大きいと判明。『はるか』の男性読者が増えることを期待してがんばります。

かすがい市男女共同参画情報紙　『はるか』vol.17
2006年10月発行
企画・編集　はるか編集委員
発　　行　春日井市市民経済部青少年女性課
〒486−8686 春日井市鳥居松町5−44
TEL0568−85−6152　FAX0568−85−3786
Eメール　sesyojyo@city.kasugai.lg.jp

「はるか」Vol.17いかがでしたか?
ぜひ、みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。
また、「はるか」で取りあげたい内容がありましたら、併せてお知らせください。

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています
ISO14001認証取得
「環境にやさしい自治体 春日井市」